

一斉学習 ■ 同時進行型

実践タイトル 交差点の画像からどんな危険なことがあるか予測し伝え合う

主に活用したICT機器・教材・コンテンツ等とそのねらい

電子黒板

・交差点の画像を大きく見せることにより、興味関心を高め、気付いたところなど、ペンで書き込みができるようにする。

教師が撮影した静止画

・身近な通学路の交差点を撮影することで、児童の視点を焦点化させる。

参考にしてほしいポイント

- ・1枚目の画像では、塀や看板で左右の見通しが悪い交差点を撮影し、止まれの標識があるのに止まらずに飛び出してしまったら、どんな危険があるかをクイズのように提示することで、課題への興味関心を高める。
- ・予測ができない児童に対して、2枚目の画像では、看板の下から人の足が少し見える画像を出しヒントを加える。3枚目は車や人が通過する様子の画像を提示し考えさせる。
- ・他にも、自転車に乗っている時の交差点通過の場合の危険予測の画像や、通学時の児童の様子の画像を提示し、どんな危険が潜んでいるか、そして自分の身を守るためにはどのような行動をとるべきかを考えさせていった。

本時の展開(主な学習活動)

学習の流れ(分)	主な学習活動	ICT機器・教材、コンテンツ等
導入 0 10	・問題場面について、どのような場面であるか状況等をつかむ(信号のないT字の交差点、「止まれ」の標識がある)。	・電子黒板 ・教師が撮影した静止画・歩行編(写真1)
展開 10 35	・校区の危険な交差点の画像を見ながら、具体的にどんな危険があるかについて考えることができるようにする。(潜在危険の把握、事故予測)。 ・問題場面のような所で起こる事故について話を聞く(事故発生、状況についての知識)。	・電子黒板 ・教師が撮影した校区における危険な交差点の静止画・歩行編(写真1) ・教師が撮影した校区の危険な交差点の静止画・自転車編(写真2)
まとめ 35 45	・自分の通学路の交差点で「気を付けること」を決めて、ワークシートに書く。(自己決定)。 ・交通安全のためにどう行動したらよいか、伝え合いをして学習を振り返る。	・電子黒板 ・教師が撮影した各通学路の危険な交差点の静止画(写真3) ・ワークシート



写真1: 歩行編 どのような場面であるか状況をつかむ



写真2: 自転車編 危険予測ができたか確認する



写真3: 道路標識やマーク、卒業生がデザインした交通安全看板

ICT活用への児童生徒の反応等

- ・交差点のあぶないところを友だちと話し合っ、考えを知ることができた。
- ・大きい画像を見て、考えていくことが楽しそうであった。
- ・今度は、自分が電子黒板を使って発表してみたいという意欲がみられた。

活用効果

評価の観点	・集団の一員としての思考・判断・実践	具体的変容	・1枚の画像から、存在危険の把握や事故予測などを児童に予測させたり、気付いたことをペンで書き込みや拡大することで思考の視覚化と共有化ができた。
-------	--------------------	-------	---

実践の手応え

- ・時間の経過によって変化する交差点の画像数枚を、電子黒板に拡大し提示することで、その変化に気付き、友だちと伝え合うことができた。